



発行  
江南市子育て支援センター  
☎ 56-6337  
FAX 53-6996  
〒483-8157  
江南市北山町西 300 番地  
toko\*toko\*labo 2 階

## 《自信が育つ「できたね」のことばがけ》

「ほめて伸ばす」とよく言われるけれど、「ほめる」って意外にむずかしい? 「エライ!」だけでは子どもは何をほめられているかわかりません。子どものどこを見ているかまで伝えたいですね。

### どんなときに「ほめる」の?

子どもをほめてあげたいのは、おもに次のふたつのときです。

○自分で考えて行動する「自主性」を発揮したとき

○社会で生きていくのに必要な「協調性」を発揮したとき

自主性をほめられた子どもは「自分で考えたときに認められた」と知り、さまざまな応用ができるようになります。また、お友だちと仲良くしたときにほめられると、協調性が育ちます。

よくあるのは「ありがとう」と感謝すべきときと、ほめるべきときを混同しているケース。大人の都合に子どもが合わせてくれたときは「ありがとう」と言いましょう。たとえば親の集まりに子どもがつきあってくれたときは、「静かにしていてえらかったね」ではなく、「お話しているときに静かにしていてくれてありがとう」と伝えます。大人の都合がいいときにほめられた子どもは親の目が届くときだけ、ほめられる行動をすることも・・・。

### 子どもの年齢によってもほめ方は違います

0歳～3歳までは未来を予想できないので「〇〇すると〇〇になるからえらいね」などとほめても理解できません。この時期は肯定感を伝えることが大事なので「できたね!」などと共感のことばをかけましょう。3～4歳くらいになると、ほめられている内容がうっすらとわかるようになり、5歳くらいになるとだいたいの内容が理解できるようになります。そのときに注意したいのが、ただ「エライ!」とほめること。子どもは自分のどこを認められたのかがわかりません。何がえらいのか、どこがよかったのか具体的に伝えましょう。たとえば子どもが絵を描いたときに



「この色づかいすごく好きだよ」などと伝えると「お母さんは自分をちゃんと見てくれている」と感じ取るものです。こうしたところに響く伝え方は子どもの自信を育みます。それは、自分の存在そのものに価値があると思えるような自己肯定感となります。ただ、このほめ方がいつもできなくても大丈夫! 10回に1回でも成功すれば、きっと子どもの心には残るものです。

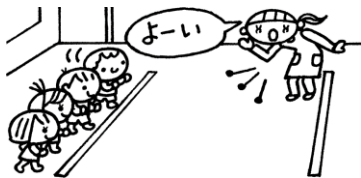
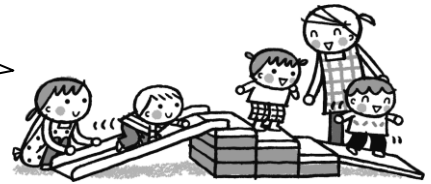
# 《親子ふれあい遊び講座を終えて》

10月17、18日に武道館の柔道場で子育て支援センター、ファミリーサポートセンター共催「親子ふれあい遊び講座」を開催しました。両日とも大盛況で各日45組ほどの親子が参加してくれました。



はじめは「わらって おはよう」「バスにのって」のふれあい遊び、「へんしんぐるぐるぱ！」などの体操を楽しみました。支援センターでおなじみの曲もあり、音楽にのって自然と体でリズムをとって楽しむ姿が見られました。

後半の「ちびっこ運動会」ではアンパンマンの曲に乗ってウェブバランスやフラフープ、アンパンマンの鈴たたき、フープトランポリン、階段遊具、ヒラヒラトンネルをして楽しみました。



最後は「よーい、どん」でかけっこです。ゴールでアンパンマンの金メダルをかけてもらい、ご機嫌の子どもたちでした。

## 【参加して下さった方の感想です】

- ・歩きたての子どもでも参加できる内容で親子とも楽しむことができました。終了後「もう一回」と子どもが言っていました。アンパンマンとタッチできたところを喜んでいました。
- ・暑くて外で中々遊べなかったのが、室内で大勢のお子さんと遊べたのはいい機会でした。
- ・広い畳の上で思いっきりハイハイできたので子どもも満足気でした。



# 《おじいちゃん・おばあちゃんの孫育て》



祖父母の“孫育て”は、孫(子ども)・親・祖父母、そして家族全体にとってメリットがあります。一方で、子育てをめぐる祖父母と親の意見がすれ違うこともあるようです。祖父母と親が、子育てについての共通理解を持ち、上手な付き合い方ができるといいですね。

## ・育児の主役はパパとママです。

二人の育児をサポートする脇役であることを自覚しましょう。どんな考えで育児をしたいかを知ることが大事です。

## ・お互いに否定せずいったんうけとめて！

お互いにそれは違うと否定せず「なるほど」「そうなの」といったん受け止めたうえで提案してみてもいいです。

## ・自分のライフスタイルは大事にする。

あまりなんでも受け止めると当たり前になり断れなくなってしまいます。自分たちのライフスタイルも大切です。